

岐阜県海津地方のオニバス群落

磯部 亮一

岐阜県の最南端に位置する海津地方は、木曾川、長良川、揖斐川流域の沖積平野で、河川に包囲された典型的な輪中地帯である。堤防に囲まれた海津地方に、オニバス *Euryale ferox* Salisb. の産地があることを知ったのは、今から3年程前のことである。当時、海津郡平田町立今尾小学校に在職中の故菱田雅雄氏から、海津郡内におけるオニバスの分布とその生育状況について、詳しい説明やら参考資料など御教示を頂いていた。

筆者は本年(1987年)9月から10月にかけて、海津町及び南濃町の現地を訪れ、菱田氏の資料(1984年)を参考に現況調査した。全国的にはあまり知られていない当地方で、良好なオニバス生育地を数カ所確認したので、ここに概要を報告しておきたい。

I. 海津町内におけるオニバス生育地の概況

海津町の高須地区から、石亀地区に至る町道に深浜五町と言うバス停がある。このバス停から300mほど西に入った農道南側に、貝沼牧場の牧草地がある。1979年に、休耕田を牧草地とするため、長さ117m、幅5m、深さ1m、水深60cmの堀が南北に3本作られた。初めの1~2年は牛ふんが堀に捨てられたが、1983年にオニバスが発見され、その後良好な生育が続いている。この地が耕地化する以前オニバスの生育地と考えられることから、埋没種子から発芽を立証した実例として興味ぶかい場所

である。

今回の調査でも海津町内においては、最大の群生地と言え。生育旺盛な株が3本の堀に50株以上群生し、最大浮葉は2m35cmを測定した。開花株も多くみられ、9月15日、9月23日の両日には葉を突き破った展開花を多数観察した。堀の周辺にはヨシ・クログワイの抽水植物が生育しているが、それ以外の水草類はみられない。

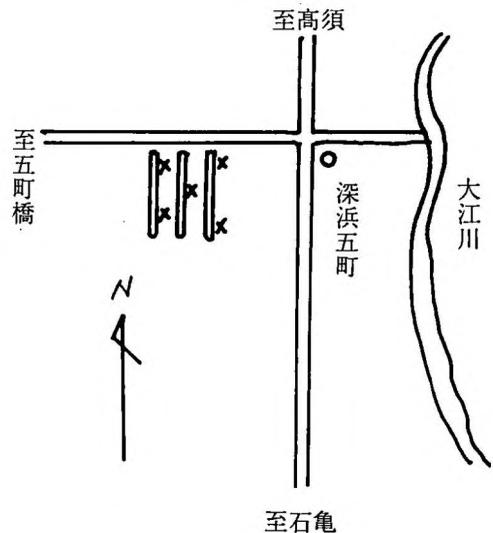


図1. 海津町深浜五町貝沼牧草地堀の略図



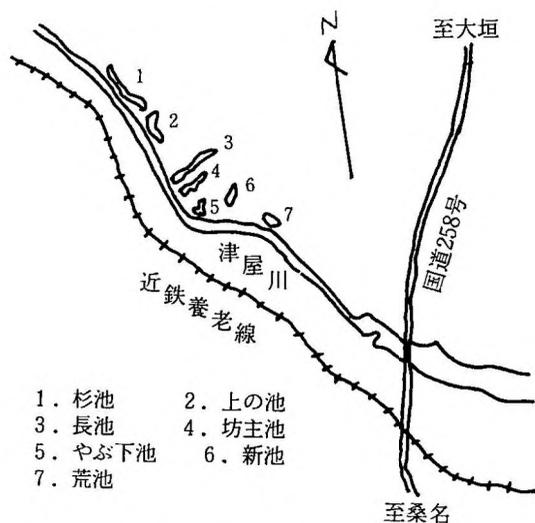
写真1. (左) 海津町貝沼牧草地堀のオニバス群落(1987. 9. 15), (右) 同オニバスの展開花

海津町内には、毎年各地の用水路でオニバスの生育が確認されている。本年筆者の調査では札野地区、立野地区、深浜地区、外浜地区の4地点で、それぞれ1～5株の生育を確認することができた。狭い水路内にオオカナダモ・クロモ・マツモ・トチカガミなどの間に生育し、いずれも浮葉は30cm～40cmぐらいの貧弱な株で、狭い場所での生育は少し無理のようだ。

II. 南濃町戸田水郷のオニバス生育地の概況

津屋川左岸の池沼群は、海津郡南濃町戸田地内の桜並木のある堤防に沿って大小7個の遊水池が連なっている。池の名称を上流から杉池、上の池、長池、坊主池、やぶ下池、新池、荒池と言う。中央の長池、坊主池、やぶ下池の3カ所は、現在自然の釣池として地元の人が利用している。

池沼群には、古くからオニバスの生育が知られ戦前戦



- 1. 杉池
- 2. 上の池
- 3. 長池
- 4. 坊主池
- 5. やぶ下池
- 6. 新池
- 7. 荒池

図2. 海津郡南濃町戸田水郷池沼群位置図

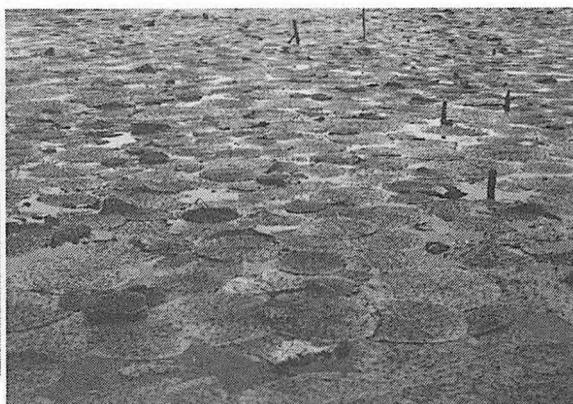


写真2. (上段) 南濃町上の池のオニバス群落 (1987. 9. 23)

3. (下段) 南濃町新池のオニバス群落 (1987. 10. 18)

後にはどこの池にも群生し、実を田舟で採集して食用にしたと在住者の方々は証言している。しかし、近年の耕地整理など環境変化で少なくなったとはいえ、まだその年によって相当な群落がみられるようだ。菱田氏(1983年)は、上の池で群生を確認しているし、長池北側水路において旺盛な生育状況を観察記録している。

今回9月23日、10月18日の両日筆者らの概観でも、上の池には100株以上オニバスが群生して池の水面を覆っていた。更に新池にも50株以上の群生がみられ、クラブハウスのあるやぶ下池に2株、良好なオニバスの生育を

確認した。また各池沼の周囲にはヨシ・マコモが群生し、池の中にはヒシ・オニビシ・トチカガミ・ホテイアオイ・アオウキクサ・サンショウモ・マツモ・クロモなどが生育しており、多彩な水草相が観察できる興味ぶかい水郷地帯であった。

以上、調査報告をするにあたり、海津町の菱田雅雄氏の御家族、並に南濃町戸田水郷の日比和夫氏には大変お世話になった。記して感謝の意としたい。

常滑市検原公園の水草

中井三従美

本誌No.28(1987)で浮葉、地下茎などの形状からヒメコウホネと判断していた同種は、6月1日開花、6月3日、名古屋浜島繁隆先生に、ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrimum* Makino と同定していただき、7月8日には、池の囲りにヒメコウホネ開花数42、中央部に、ホソバミズヒキモの花も見られた。

その後、数回、同池を訪れタヌキモ類の観察を続け8月15日、開花を見て、花の形状、花茎にりん片、葉間に呼吸枝などがあることからタヌキモと思われた。

8月22日、浜島先生、千葉の阿部俊朗氏が知多半島の水草を調査に来られた時に、同池に案内し、水草を見ていただいた。

9月20日、日本歯科大学の柴田千晶先生が当地の食虫植物を調査に来られたおり、同池のタヌキモ類をみてい

ただき、ノタヌキモ、タヌキモの2種を同定していただいた。

この池は、常滑市検原公園の中にある4ヶ所のため池の1つであるが「ため池は、大きな教育的意義をもつ生態系を示す宝庫である」と市誌にもあり、貴重なため池として、後世に残したく市の方へお願いをした。

神奈川県内のタヌキモの産地

苅部治紀

神奈川県では、水草全般に減少が著しく一般に普通とされるものも極めて少ない。今回その内特に稀なタヌキモについて報告する。

県内において過去記録があるのは、箱根町仙石原で現在も健在であるらしい。筆者は最近この他に2ヶ所の産地を確認した。川崎市麻生区黒川と相模湖町相模湖ピクニックランド内の池である。黒川では休耕田の水たまりで確認し、1984年発見以来継続して生育している。相模湖ピクニックランド内の池は1987年に須田真一君により発見されたもので、両地とも多量に生育している。未筆となったが、貴重な記録の発表を快諾してくれた須田真一君に深く感謝する。



常滑市検原公園のヒメコウホネ (S. 62. 7. 8. 撮影)